

皮膚がんの基礎知識

今回から皮膚がんシリーズが始まります。
がん研究会 有明病院の先生方にリレー形式でご執筆いただいています。

1 皮膚がんとは どんな病気？

皮膚がんは皮膚の表面（表皮）にある様々な細胞ががん化したものです。どの細胞ががん化するかにより悪性黒色腫、基底細胞がん、有棘細胞がん、乳房外パジェット病などと病名が変わり、さらに悪性度も異なります。このように皮膚がんといっても一つの病気を示すのではなく、色々な種類があります。

皮膚がんは痛み、かゆみといった自覚症状を伴うこともあるため、湿疹や感染症と間違われることもあります。また皮膚がん検診がないため、「以前からあったものだから心配な

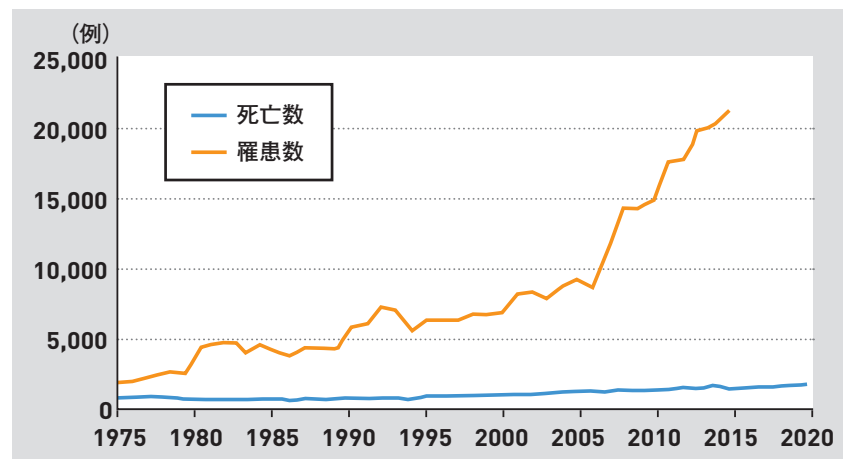
い」と自己判断してしまい、進行した状態で受診されることもあります。皮膚がんは、他の悪性腫瘍より悪性度が高い傾向にあり、早期発見が重要となります。

基底細胞がんはゆっくり進行していきますが、悪性黒色腫は週から日の単位で病状が悪化していき、皮膚がんの種類によって進行度が大きく異なります。治療は内臓への転移がなければ腫瘍切除術、遠隔転移がある場合は抗がん剤治療を行います。ただし、皮膚がんの種類によっては切除をせず、抗がん剤や放射線を組み合わせた治療を行うなど様々です。この号では、皮膚がんを起こす原因や診断について説明していきます。

2 皮膚がんの原因について

発症誘因として紫外線が挙げられ、長期の紫外線曝露を受ける高齢者に多いといわれています。他のがんと比べると患者数は少ないですが、高齢社会を反映してこの10年で倍増しており、2025年には現在より1.5倍に増加し、今後さらに増えていくと予想されています（グラフ1）。また、紫外線曝露が誘因の一つとされる悪性黒色腫の頻度は、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアにおいて、がん全体の中でそれぞれ5番目、6番目、3番目となっており、その患者数の多さから紫外線対策や啓発

グラフ1 皮膚がんの罹患数と死亡数 資料：国立がん研究センターがん対策情報センター



よしの こうじ
吉野 公二先生

がん研究会有明病院
皮膚腫瘍科 部長

1998年日本大学医学部卒業。国立がん研究センター中央病院、がん感染症センター都立駒込病院医長・部長を経て、2022年4月より現職。皮膚がん全般の内科ならびに外科治療に従事している。

3 皮膚がんの 初期症状

活動が盛んに行われています。今後、本邦でも皮膚がんは注意すべき疾患になっていくと思います。

皮膚がんは「悪性黒色腫」と「非悪性黒色腫」に大きく2つに分けられ、後者の代表として基底細胞がん、有棘細胞がん、外陰部パジェット病、血管肉腫が挙げられます。一般的には皮膚がんの特徴的な症状はなく、感染を生じた時にかゆみや痛みを伴うようになってきます。多くは、自覚症状があるわけではなく、診察時に偶発的に診断されることも少なくありません。皮膚がんの認知度が低い状況も原因の一つかもしれません。

● 悪性黒色腫 (図1)

が、どういう異常が皮膚にあった場合に皮膚がんを疑い、医療機関を受診するべきかについて解説していきます。

本邦は海外と異なり足底に生じやすく、爪にもできます。一見するとホクロと見分けがつかないため、肉眼的所見を参考にしたABCDEF診断基準があり、A: Asymmetry (非対称性病巣)、B: Border irregularity (不規則境界)、C: Color variegation (多様な色調)、D: Diameter enlargement (長径6mm以上)とこれらの所見があれば悪性黒色腫を疑います。急速に隆起したり、出血を生じるようであれば要注意となります。

● 基底細胞がん (図2)

高齢者に生じやすく、紫外線が発症誘因とされるため顔面に発生します。黒色調の蠟様光沢を伴い、増大すると中央部が陥凹し潰瘍を伴います。悪性黒色腫と基底細胞がんは黒色調に見えるため、両者の鑑別にダーモスコピー（拡大鏡）を使用します。

● 有棘細胞がん／日光角化症 (図3)

高齢者の露光部、特に顔面に好発しやすく、肉眼的所見は境界不明瞭な鱗屑（うるこ状のくず）を伴う紅斑局面（皮膚の赤み）として生じ、この状態を日光角化症といい、表皮内がんとして扱われます。さらに進

● 外陰部パジェット病

外陰部に紅斑を呈することが多く、湿疹、カンジダ症との鑑別が重要で、ステロイド外用剤を塗布しても改善がない場合は本疾患を疑います。

4 病院受診の タイミング

皮膚がんは、自分自身が異常だと思わない限り病院を受診する機会がないため、以前からある病変に少しでも変化がある、または新たに生じた病変が気になるようであれば医療機関を受診することをお勧めします。その際は、皮膚がんを専門に行っている施設は限られているため、日本皮膚科学会ホームページから皮膚悪性腫瘍指導専門医が在籍している病院を受診するのが良いと思います。

図1 足底悪性黒色腫



図2 頬部基底細胞がん

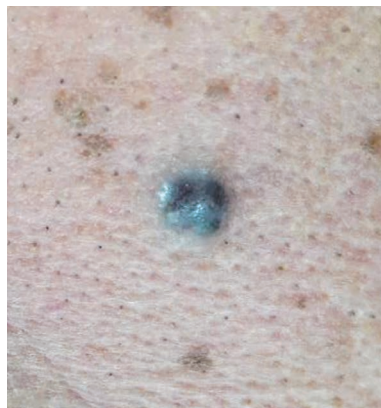


図3 頬部日光角化症



今回は「悪性黒色腫」についてのお話です。